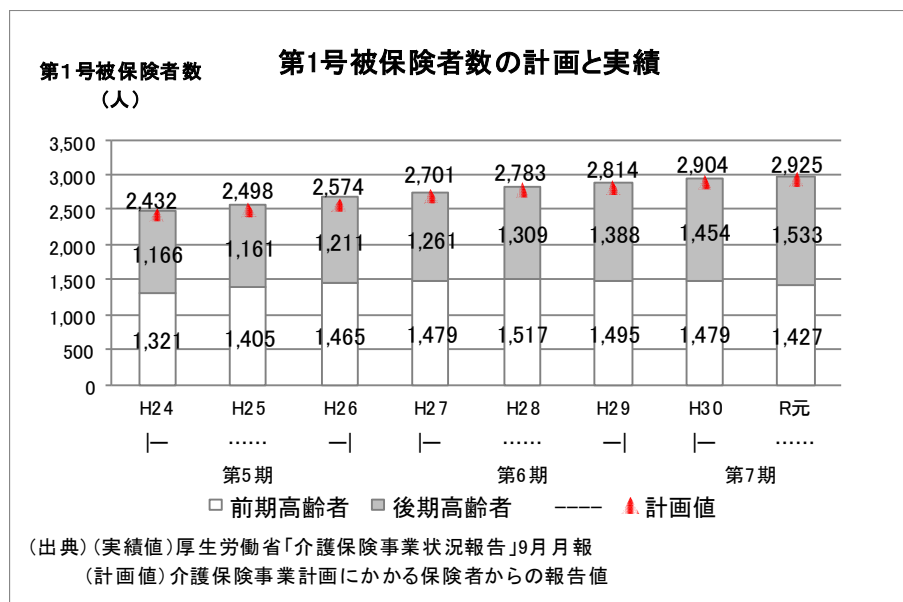


## 第7期介護保険事業計画進捗状況

## 1. 第1号被保険者数の計画と実績の比較

第7期計画の人口推計から第1号被保険者数を実績値と比較してみると、平成30年、令和元年はともに対計画値では101%で実績値が高くなっている。

【参考・計画推計値】



平成30年  
第1号被保険者  
2,904(-29)  
前期高齢者 1,471(-8)  
後期高齢者 1,433(-21)

令和元年  
第1号被保険者  
2,925(-35)  
前期高齢者 1,413(-14)  
後期高齢者 1,512(-21)

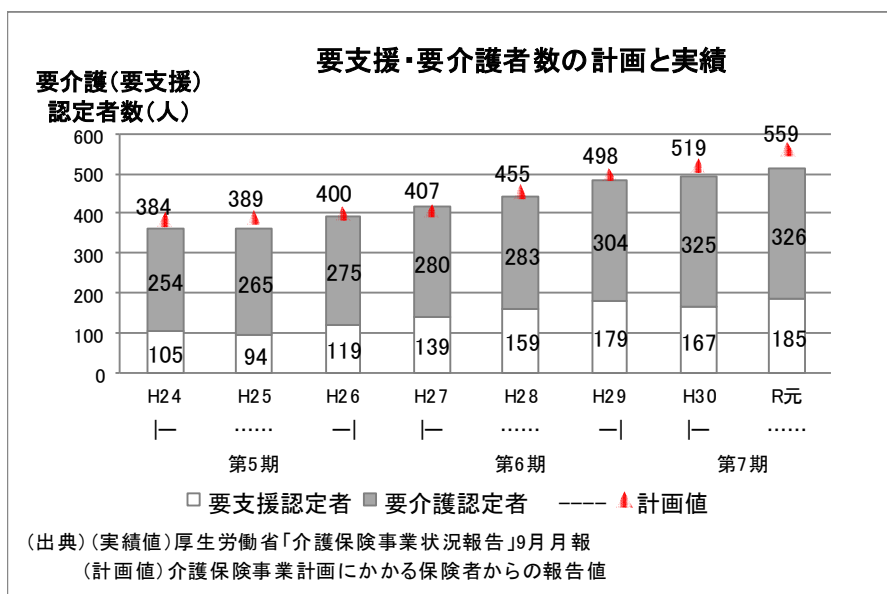
※( )内は実績値から見た推計値との差

厚生労働省「見える化システム」から令和2年9月取得

## 2. 要支援・要介護認定者数の計画と実績の比較

第7期計画の要支援・要介護認定者数の推計と実績値を比較してみると、平成30年、令和元年ともに推計値が高く、対計画値ではそれぞれ95%、91%で要支援1が多く見込まれていた。また、令和元年では要介護2も多く見込まれていた。

【参考・計画推計値】



平成30年  
認定者合計 519(+26)  
要支援認定者 191(+24)  
要介護認定者 328(+2)

令和元年  
認定者合計 559(+48)  
要支援認定者 205(+20)  
要介護認定者 354(+28)

※( )内は実績値から見た推計値との差

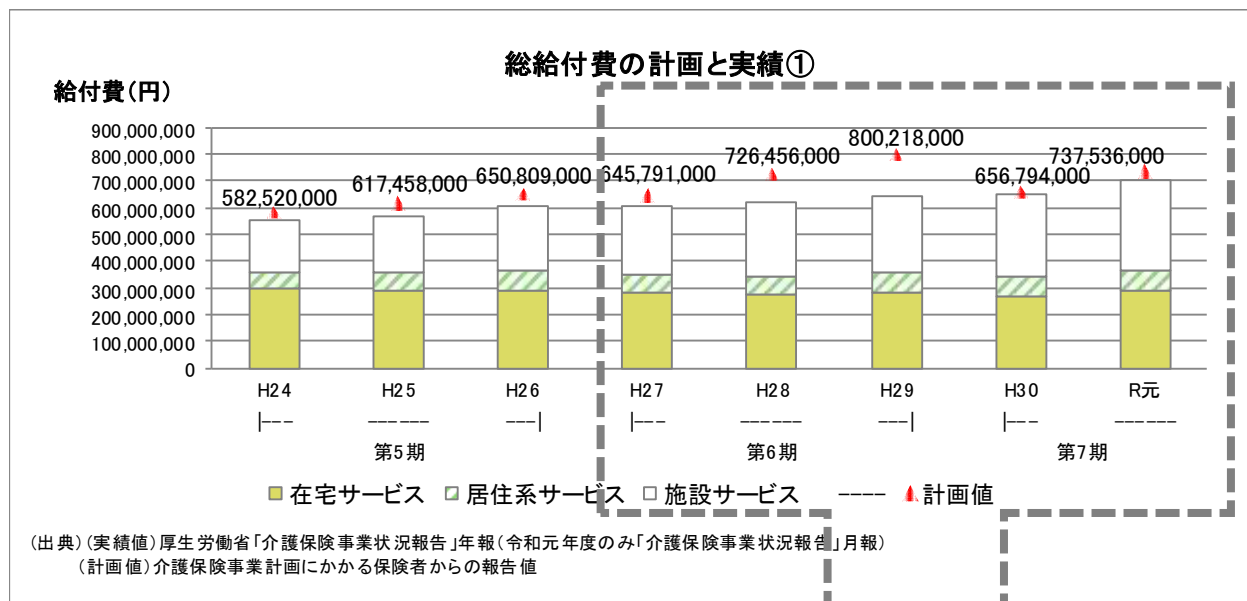
厚生労働省「見える化システム」から令和2年9月取得

### 3. 総給付費の計画と実績

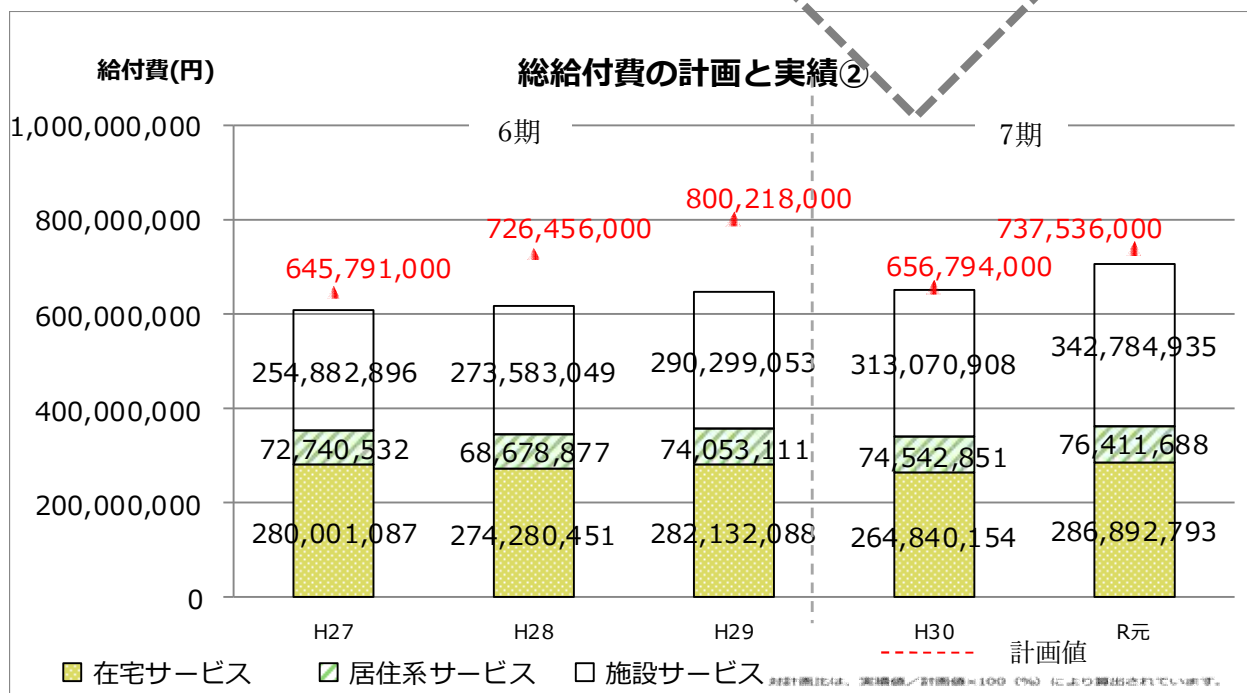
#### 3-1. 総給付費の計画と実績の比較

在宅サービス、居住系サービス、施設サービスの3区分（【サービス区分説明】を参照）で給付費の対計画値を見てみると、平成30年は99%、令和元年は96%となっている。令和元年の実績では、居住系サービスの認知症対応型共同生活介護の整備の遅れが考えられる。

総給付費としての実績は対計画値で下回っているが、サービス区分別で見ると、在宅サービス・居住系サービスに比べて、施設サービスの実績の伸びが大きくなっており、今後も推移を注視する必要がある。



#### 3-2. 平成27年～令和元年の総給付費の計画と実績の比較



厚生労働省「見える化システム」から令和2年9月取得

**【サービス区分説明】**

**在宅サービス**・・・訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、居宅療養管理指導、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護（介護老人保健施設）、短期入所療養介護（介護療養型医療施設等）、短期入所療養介護（介護医療院）、福祉用具貸与、福祉用具購入費、住宅改修費、介護予防支援・居宅介護支援、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護、地域密着型通所介護

**居住系サービス**・・・特定施設入居者生活介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護

**施設サービス**・・・介護老人福祉施設、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護、介護老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院